

全国に拡大する宿泊サービス付きの通所介護事業所、いわゆる「お泊まりデイ」。広島県福山市の施設で起きた利用者に対する暴行事件の公判で、介護福祉会社の社長ら被告3人が「うまく介護できずイライラした」「宿直業務で疲労が蓄積していた」などの理由で虐待を続けていた実態が明らかになった。介護職員のストレスは他の施設でも共通するとみられ、関係者の間で衝撃が広がっている。

## お泊まりデイ事件

# 「うまくできずイライラ」「宿直で疲労蓄積」

# 介護虐待

# ストレス引き金

同社は2008年に1か所目を開設。2階建て民家を改修して10年6月に開設した2か所目の「デイサービスゆかりの家北本庄」で宿泊サービス（泊約3000円）を実施し、利用者らは両施設を行き来していた。事件の被害者となった男女4人（61〜97歳）はいずれも宿泊利用者だった。検査側によると、介護福祉士の赤井被告は11年6月、北本庄の事実上の管理者になり、間もなく利用者への暴言や暴行が始まったという。昼間の利用定員は10人で、職員は7人。勤務は3交代制で、職員1人で宿泊者を見守る宿直勤務（午後

4時〜午前9時）はひと月に10回近く回ってきた。経験は浅く、管理者になる訓練もなかった。被告人質問では「利用者が言うことを聞いてくれず、（心理的に）追い込まれた」「イライラするのを抑えられなかった」と語り、社長の孫被告（42）から「利用者になめられるな」と指示されていた、と述べた。

赤井被告は法廷で、北本庄では昨年4月以降、17人が寝泊まりしていた、とも語った。

宿泊サービスを実施する同市内の別の施設の職員は「ストレスは相当大きかったのでは」と推測する。

最近、認知症の利用者が夜中にベッドの上で放尿した。トイレに連れて行こうとしても従わず、着替えさせて布団を替えるのに数時間かかった。職員は「疲れで感情を抑えきれない時は利用者に当たってしまうかも」と漏らし、「長期宿泊者の場合、介護者と利用者という関係性があやふやになるのでは」と指摘する。

事件を受け、福山市は今年12日、介護施設の管理者ら約900人を集め、高齢者虐待防止の研修を実施した。広島県も約1000か所の事業所に宿泊サービスの有無などを聞き取る調査を始め、施設の運用基準の策定も検討している。

利用者に声をかける介護職員。業務は多岐にわたる（広島県福山市内の介護施設で）※本文の施設とは関係ありません

介護施設での虐待は、職員の経験や知識の欠如、ストレスなどが原因とされる。厚生労働省の調査によると、12年度に施設内で起きた虐待は155件。発生要因では、知識や介護技術などの不足、職員のストレスや感情コントロールの問題が目立った。強引にベッドから下ろしたり、叱り口調

で萎縮させたりするなど、職員自身が虐待と認識していないケースもあった。虐待を受けた高齢者のうち、認知症で意思疎通などが困難な人は74.1%を占めていた。職員数が少ない小規模施設で虐待が起きやすい傾向もみられた。

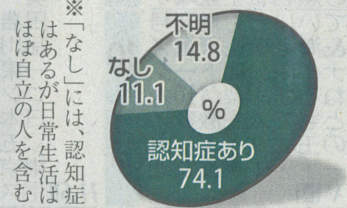
## 被害の74% 認知症

◆施設内での高齢者虐待の発生要因 (2012年度、厚労省調べ)

|                     |      |
|---------------------|------|
| 知識や介護技術などの問題        | 55.3 |
| 職員のストレスや感情コントロールの問題 | 29.8 |
| 職員の性格や資質の問題         | 28.4 |
| 倫理観や理念の欠如           | 11.3 |
| 人員不足や多忙さ            | 9.9  |
| 組織風土や職員間の関係性の悪さ     | 9.9  |

※複数回答。単位は%

◆施設内で虐待を受けた高齢者の認知症の有無 (2012年度、厚労省調べ)



介護業界は重労働の割に収入が低く、離職率が高い。人手不足も深刻で、経験豊富な人材の育成が課題だ。松下年子・横浜国立大教授（精神看護学）は、職員研修の充実や待遇の改善が必要だとし、職員同士で話し合いの場を持つなど、精神的な負担を減らす取り組みが欠かせない」と話す。



孫被告は昨年6月、認知症男性（84）のいすの座り方に腹を立て、顔を平手で殴打。さらに、耳をつかみ、顔や胸を拳で数回殴った、などとされる。介護福祉士の資格を持ち、宿直勤務も担当。暴力や暴言は09年頃から続いていたという。

孫被告の知人によると、開設当初は「認知症や障害が重い人も受け入れ、家族のように暮らせる施設にしたい」と熱く語っていた。なぜ、虐待に走ったのか。別の関係者には事件後、「宿直勤務が多く、疲れがたまっていた。仕事がうまく進まないことに腹が立ち、性

格的に合わない利用者もいた」と話したという。

赤井被告は法廷で、北本庄では昨年4月以降、17人が寝泊まりしていた、とも語った。

宿泊サービスを実施する同市内の別の施設の職員は「ストレスは相当大きかったのでは」と推測する。

最近、認知症の利用者が夜中にベッドの上で放尿した。トイレに連れて行こうとしても従わず、着替えさせて布団を替えるのに数時間かかった。職員は「疲れで感情を抑えきれない時は利用者に当たってしまうかも」と漏らし、「長期宿泊者の場合、介護者と利用者という関係性があやふやになるのでは」と指摘する。

事件を受け、福山市は今年12日、介護施設の管理者ら約900人を集め、高齢者虐待防止の研修を実施した。広島県も約1000か所の事業所に宿泊サービスの有無などを聞き取る調査を始め、施設の運用基準の策定も検討している。

店内の防犯カメラの映像などから、鈴木さんは直前までデイスカウント店で買い物をし、携帯電話で友人と話していたことが確認されているが、特に変わった様子はなかったという。